

5歳児実践事例

「松ぼっくりのかさの開閉をきっかけに自然物への興味が広がった事例」

男児14名 女児8名 計22名

1 子どもの実態 (9月下旬から10月上旬)

- ドッジボールや鬼ごっこなど、ルールがある遊びでは、互いに理解し合っているの、体を動かして遊ぶことを好む子どもが多い。運動会をきっかけに、友達関係が広がり、園庭で遊ぶ時は、子ども同士で声を掛け合い、男女関係なく5~6人ずつに分かれて鬼ごっこをする姿があった。
- 園庭では、鬼ごっこや固定遊具等身体を動かして遊ぶことを好んでいる。身近な虫や生き物に対しては、興味をもつ子どもがいるものの、草花などの自然物や自然事象への興味・関心については個人差が大きい。

2 教師の願い

- 1学期から、その時期に園庭にある花や実を知らせたり、関連した図鑑や絵本を学級内で読んだりして自然物や自然事象に子どもが興味・関心をもてるようにしてきたつもりだったが、興味や好奇心につながるまでにはいたらなかった。今回、松ぼっくりの傘の開閉をきっかけに、身近にある自然物や自然事象に自らもって目を向け、心が動く経験を重ねながら、興味・関心の幅を広げてほしい。

3 保育の実際

子どもの姿と教師の援助 _____: 教師の援助	教師の援助の意図・考察
<p>(9月30日)</p> <p>園庭での遊び時間、友達と誘い合って鬼ごっこをしている子どもたちの様子を見ながら、教師は①閉じている松ぼっくりやドングリを拾った。降園前、教師は②「今日、園庭で松ぼっくりやドングリを見つけたよ。みんなも「秋だな。」と思う物を見つけたら教えてね。」と、拾った自然物を紹介した。子どもが降園後、③拾った松ぼっくり、ドングリなどの自然物と一緒に秋にまつわる物が載っている図鑑や絵本を、登園した子たちが一番、目を留める場所に設定した。</p> <p>(10月4日 朝)</p> <p>登園してきたA児がテーブルに置いてあった松ぼっくりの傘が開き掛けていることに気付いた。「先生、松ぼっくりが大きくなってる。」と知らせにきたので、教師は④「本当だ。私が拾ったときには小さかったのに。不思議だね。」と首を傾げ、理由が分からない素振りをした。近くにいた子どもたち数人がA児と教師が話している様子に関心を持ち、近づいてきた。その中の一人、B児が「ねえねえ。どうしたの。」とA児に尋ねた。A児は「松ぼっくりが大きくなっていたの。」と答えた。B児が「僕、知ってる。松ぼっくりって水が付くと小さくなって、乾くと大きくなるんだよ。」とA児に話したところ、それまで一緒に話を聞いていたC児も「僕も本で見たことある。」とB児の話に相槌を打った。</p> <p>教師は、⑤「本当に松ぼっくりが小さくなったり大きくなったりするのかな。」とB児とC児の話を半信半疑な雰囲気尋ねた。B児とC児は「本当だよね。」「ね。」と顔を見合わせて笑い合った。⑥「本当かどうか、実験してみたくなっちゃった。ねえ、A児ちゃん。」と教師が言うと、A児が「う</p>	<p>① 子どもたちが、教師の動きに関心を持ち、自然物に目を向けるきっかけになってほしいと願った。</p> <p>② 園庭にどんな自然物があるのか、クラスの子全員に気付いてほしいと願って話した。</p> <p>③ 松ぼっくりの傘の開閉に気付き、自然物に興味をもつのではないかと考え、自然と目に留まる場所に置いた。</p> <p>④ A児の発見に共感しつつ、その子なりに理由を考えたり友達に聞いたりしてほしいと思い、教師は答えを言わずに待った。また、教師が分からない素振りを見せることで、近くの子どもから考えが出てくることを期待した。</p> <p>⑤⑥ 実際に本当かどうか試してほしいと思い、そのきっかけになるような言葉掛けをした。</p>

ん。私も実験してみたくなった。」と頷いた。面白そうな雰囲気を感じ取ったのか、別の場で遊んでいた子たちも「どうしたの。」と気になった様子で近づいてきた。⑦教師が黙っていると、A児とB児、C児が集まった子たちに経緯を説明した。⑧教師は「試してみよう。」と言いながら廃材が分類してあるところからゼリーカップを持ってきて水を入れ、傘が広がった松ぼっくりをカップの中に入れ、他の自然物が飾ってあるテーブルに置いた。

(同日 給食前)

給食の準備のため手を洗いに行く途中で、D児とE児がカップに入れた松ぼっくりの傘が閉じかかっていることに気付き、教師とA児に知らせに来た。「先生、A児ちゃん。松ぼっくりが小さくなってるよ。」というD児たちの声に、他の子たちも興味をもち、自然物が置いてあるテーブルに集まった。そして、それぞれに「本当だ。」「すごい。」など、思ったことをつぶやく姿があった。教師も驚いた表情で、⑨「本当だ。B児君たちの言う通りだったね。C児君は本で読んだことがあるって言っていたけど、B児君はどうして知ってたのかな。」とB男に尋ねた。B児は「うーん。忘れたけど、YouTube か何かで見た。」と答えた。そして、「他の松ぼっくりも水の中に入れたら小さくなるのかな。」と教師に聞いた。そこで、⑩「どうだろうね。分からないことは試してみよう。」と返事をすると、自らカップを持ってきて松ぼっくりを水の中に入れた。その様子を見ていた他の子たちも数人も「やってみたい。」とカップに水を入れ試し始めた。

⑦ 教師が先に答えてしまうと、友達よりも教師との関わりが強くなってしまわないかと考えた。子ども同士で話す機会、聴く機会を増やしたかった。

⑧ しばらく様子を見ていたが、子どもから動き出す気配がなかった。次に同じような場面になった時に子ども自ら動けるように願ってモデルになった。

⑨ B児、C児を認めることで自信につなげると同時に、情報源が何だったのかを周囲の子知らせることで、別の場面で何か調べたい時に生かすきっかけになればと考え、周囲にいる子たちに聞こえるように話した。

⑩ 疑問に思ったことは、自分なりに試してほしいと考えた。また、教師が朝、モデルになっているので、子どもだけで動き出してほしいと考えた。

(10月5日以降)

登園すると、松ぼっくりの様子を見に行き、教師に「松ぼっくり小さくなってるよ。」と知らせに来る子が増えた。また、自身は松ぼっくりの実験はしていなくても、友達が試した松ぼっくりの様子を気にして、友達が登園すると教える姿が見られるようになった。

B児は、松ぼっくりが水の中で小さくなったことを確認すると、「ということは、水から出すとまた大きくなるってことかな。」と自分なりに予測をつぶやいていた。

これを機に自然物に目を向ける子が増え、「あの赤い実はなんだろう。」「この松ぼっくり、お部屋で水に入れてみよう。」と園庭で遊んでいる時に園舎の周囲の自然物に興味をもったり、登園途中で見つけた自然物を保育室に持ってきたりするようになった。



4 全体考察

- 本事例では、園庭に当たり前のように落ちていた松ぼっくりに子どもの関心が向くように教師が働きかけたことで、今までとは違った見方で向き合い、他の自然物にも興味をもつきっかけになった。自然物や自然事象は、あえて見ようとしなければ、子どもにとっては「ただそこにあるだけのもの」で発見や気付きがなく終わってしまう。自然事象や自然物との関わりが広がったり、深まったりするには、子どもが自然物や自然事象を「面白そう」「不思議だな」と思いながら見る「目」を養う必要がある。そのために、子どもの気付きを待つだけでなく、心が動く瞬間を友達や教師と共有する経験(直接体験)ができるよう子どもの変容を期待しながら、時に教師が積極的に働き掛けることも必要だと考える。
- 個の気付きが集団へと広がることで、いろいろな考えや情報が出て、それがまた新しい遊び方や子どもの知識(学び)につながっていくと考える。今回、A児の気付きがクラス全体の興味へとつながったのは、④の援助がきっかけだった。教師の援助として、それぞれの子どもの気付きや考えに共感しつつ、周囲の子が「何だろう。」「面白そうだぞ。」と感じ、興味をもって関わってくるような雰囲気作りが大切だと考える。